

注意事項

1. 安全上の注意

本文中に示す注意事項は状況によって重大な事故に結びつく可能性があります。いずれも安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。

2. 施工上の注意

ご使用前に以下の注意事項をお読みの上、正しくお使いください。誤った使い方をした時には、損害を負う可能性または物的損害が発生する可能性があります。

- ・使用範囲を守って使用してください。継手の破損、漏水や機能低下等の原因となります。
- ・施工手順を守って施工してください。継手の破損、漏水や機能低下等の原因となります。
- ・急な曲げ配管で継手に負荷をかけないでください。漏水の原因となります。
- ・継手端部から30mm以内は曲げないでください。漏水の原因となります。
- ・ネジ部など鋭利な部位があるため、必ず手袋などを着用してください。けがをする恐れがあります。但し、軍手など繊維がシール部に付着する恐れがあるものは使用しないでください。漏水の原因となります。
- ・機器や周辺配管に接続する場合は、必ずシール材を使用して先にテーパネジ部の接続を行ってから継手とフレキ管の接続を行ってください。
- ・結露、凍結などの恐れがある場合には、保温材などで保護してください。凍結により、フレキ管や継手が破壊し、漏水の原因となります。
- ・製品仕様の使用範囲外では使用しないでください。
- ・フレキ管は1mに1箇所を目安に支持してください。
- ・薬液、油、下水、ガス、蒸気、エア、中水、雨水、井水、河川水、土中埋設配管及び冷媒配管には使用できません。
- ・水圧試験の検査圧力は2MPa以下で行ってください。過大な圧力を加えますと、フレキ管に変形が生じ漏水の原因となります。
- ・e-フレキ継手は当社製「e-フレキ」の専用継手です。他の製品に接続して使用しないでください。漏水や破損の原因となります。
- ・継手の再利用は出来ません。
- ・EF接合作業（油性ペン等によるマーキング、スクレーパーによる切削、アセトン等による清掃等）を行った配管には継手を使用しないでください。漏水や破損の原因となります。

3. 保管上の注意

- ・継手内部に異物が入らないよう、必ずケース等に収めて保管してください。
- ・継手に過度の負荷や衝撃を与えないでください。継手が破損する恐れがあります。
- ・取り扱い中における継手の落下に注意してください。変形や損傷は漏水や機能低下等の原因となります。
- ・直射日光や雨水、有機溶剤を扱う場所を避け、継手の内部にはごみやほこりが入らないように保管してください。樹脂部品やゴムの劣化、損傷は漏水や機能低下等の原因となります。

4. 変換継手の適用製品について

■ 品番 20 EFXJ-KC をご使用の場合

継手は株式会社クボタケミックス製建築設備用ポリエチレンパイプの下記の製品のみ使用出来ます。

品名	品番	呼び径
枝付き直管	7005	25x20
		30x20
		40x20
		50x20
		65x20
スピゴットチーズ	9261	25x20
		30x20
		40x20
		50x20
		65x20

※呼び径20の枝管部分に使用出来ます。

※呼び径20の枝管部分は切断しないでください。

切断した枝管に使用した場合は、管の抜けや水漏れなどが発生する恐れがあります。

※呼び径20の直管には使用出来ません。

※上記製品以外には使用できません。

■ 品番 20 EFXJ-SE をご使用の場合

継手は積水化学工業株式会社製建築設備用ポリエチレンパイプの下記の製品のみ使用出来ます。

品名	品番	呼び径	品名	品番	呼び径
EFチーズ	KET20K	20x20	EFロング枝付異径チーズ	KT312LK	30x25x20
	KET251K	25x20		KT413LK	40x30x20
	KET302K	30x20		KT514LK	50x40x20
	KET403K	40x20	直管	AW203	20
	KET504K	50x20		AW205	20
	KET655	65x20	EF枝付片受直管	AWE251	25x20
	HET756	75x20		AWE302	30x20
KET312L	30x25x20	AWE403		40x20	
KET413K	40x30x20	AWE504		50x20	
KET514K	50x40x20	AWE655		65x20	
EFロング枝付チーズ	KT251LK	25x20	レデューサ	AWE756	75x20
	KET32LK	30x20		KRSR302	30x20
	KET43LK	40x20		KRSR403	40x20
	KET54LK	50x20		KRSR504	50x20

※呼び径20の部分に使用出来ます。

※呼び径20の枝管部分は切断しないでください。切断した枝管に使用した場合は、管の抜けや水漏れなどが発生する恐れがあります。

※上記製品以外には使用できません。



集合住宅パイプシャフト用フレキ管・継手

e-フレキ



使いやすさを追求

フレキ管

継手

01

配管施工が容易

03

ナット緩み止め機構付き

02

優れた耐久・耐食性

04

豊富な継手バリエーション

株式会社タブチ

〒547-0023 大阪市平野区瓜破南2丁目1番(本社・工場)
TEL 06-6708-0150 (代) FAX 06-6708-0210

ホームページ <https://www.tabuchi.co.jp/> ホームページはこちら▶



検索機能充実の

TBC WEBカタログはホームページから!



商品の問合せは **0120-481-130**

受付時間 9:00~18:00(土・日・祝日・夏季休暇・年末年始を除く)

札幌支店	011-814-8111(代)	東京支社	03-6899-2620(代)
盛岡支店	019-656-5011(代)	横浜支店	045-261-0800(代)
仙台支店	022-380-8801(代)	静岡支店	054-653-5530(代)
高崎支店	027-323-1124(代)	金沢支店	076-221-0640(代)
新潟営業所	025-240-9280(代)	名古屋支店	052-855-2185(代)
土浦支店	029-835-3520(代)	名古屋北営業所	0586-80-5015(代)
千葉支店	043-275-8588(代)	京都支店	075-605-7380(代)
さいたま支店	048-872-2203(代)	大阪第1支店	06-6708-0152(代)
さいたま北営業所	049-211-0023(代)	大阪第2支店	06-6708-0152(代)
多摩支店	042-580-1850(代)	神戸支店	078-441-7733(代)

安全に関するご注意

- ・設定条件、使用条件をご確認の上、器具を選定ください。
- ・ご使用前に「取扱説明書」をよく読んで正しくお使いください。
- ・取扱いを誤りますと、故障や事故及び、財産損害発生等の恐れがあります。
- ・設置工事をされる場合は、「施工説明書」をよく読んで施工してください。

岡山支店	086-222-5301(代)	大阪住設事業課	06-4704-6601(代)
広島支店	082-832-4355(代)	東京住設事業課	03-6899-2630(代)
松山営業所	089-971-5600(代)	大阪特販	06-4704-6602(代)
福岡支店	092-441-8421(代)	名古屋特販	052-855-2185(代)
鹿児島営業所	099-250-1090(代)	東京特販	03-6899-2630(代)
沖縄支店	098-867-9121(代)	リテール課	03-6899-2630(代)

●このカタログは2024年2月現在のもので、印刷インキの性質上、現物と多少の差があります。●価格はずべて消費税抜です。

●本誌に掲載されている品名・仕様等は、予告無く変更、あるいは製造を中止する事があります。ご使用の際は必ず内容をご確認ください。

PRINTED 2024.02 K0093 ③(1)SK

飲料水用

e-フレキの特長

01 配管施工が容易

可とう性と自立性があることにより、寸法合わせの難しい器具との配管接続が容易

02 優れた耐久・耐食性

フレキ管は耐久・耐食性に優れたステンレス鋼を使用し、さらに軟質塩化ビニルで外面を被覆

フレキ管

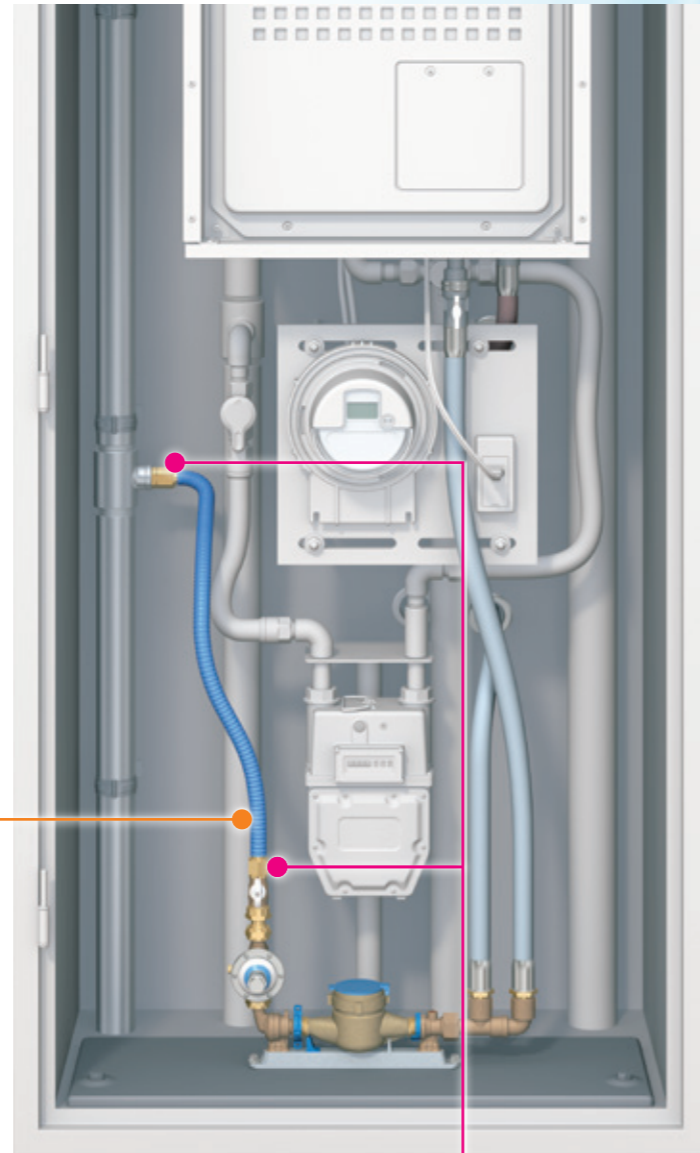


03 ナット緩み止め機構付き

継手のフレキ接続部のナットには緩み止め機構を採用。

04 豊富な継手バリエーション

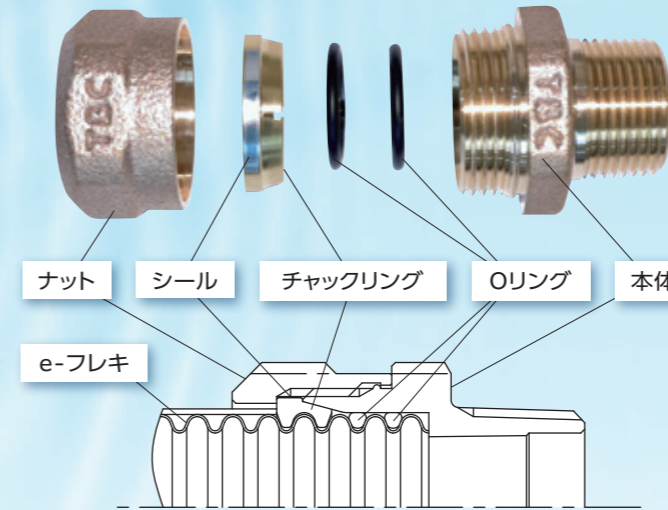
オネジ、メネジをはじめ、高密度ポリエチレン管立管(立管分岐部)に直接接続可能な変換継手もラインアップ



継手



構造及び構成部品

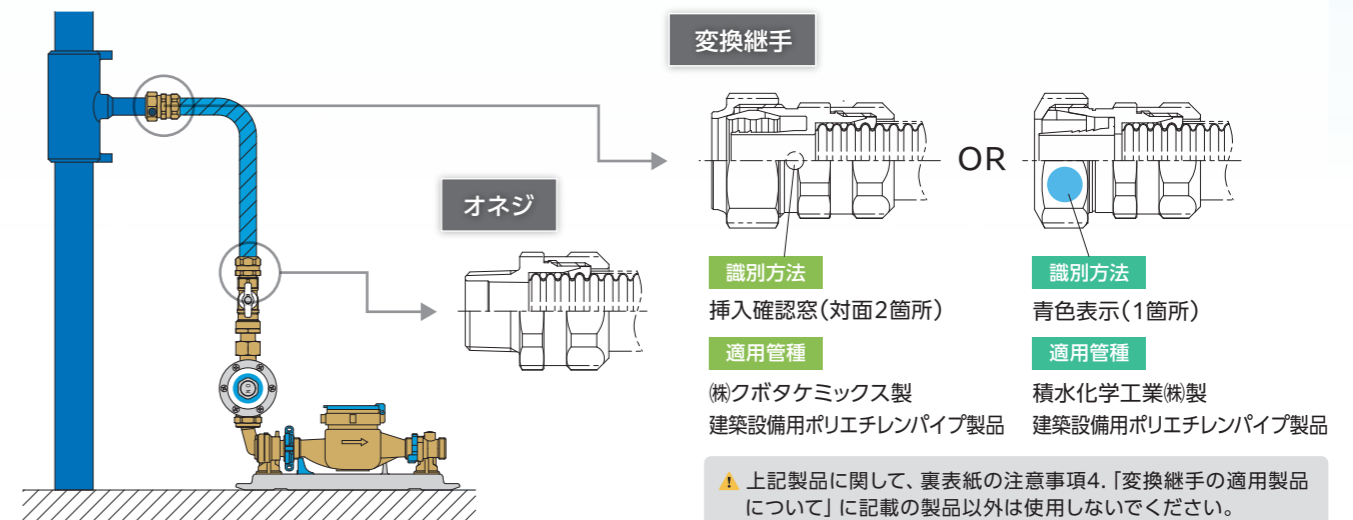


使用範囲

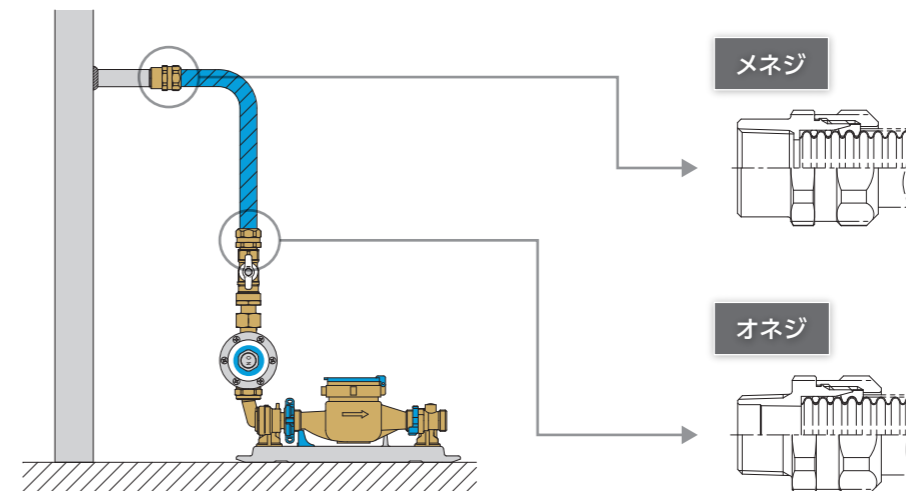
使用流体	水道水
使用圧力	1.0MPa 以下
使用温度	常温(20±15℃)※凍結不可
使用環境	パイプシャフト内

使用用途例

立管が高密度ポリエチレン管の場合



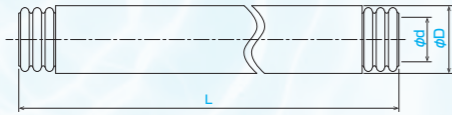
立管がステンレス鋼管又は鋼管の場合



⚠ e-フレキ継手および変換継手の施工を行う際は、必ず右のQRコードから最新版の施工手順書を確認してから施工してください。
 ※最新版の施工手順書をQRコードから確認できない、または確認できない環境の場合は、最寄りの弊社営業所までお問い合わせください。

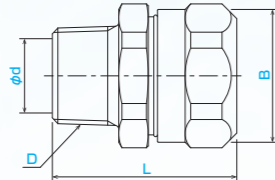


e-フレキ 30m



品番	品目コード	定価
20 EFX-30M	60025000	66,000円
L	D	d
30m	26.5mm	20mm

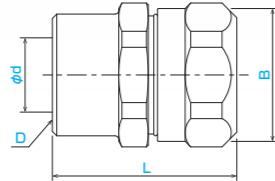
e-フレキ継手 オネジ



品番	品目コード	定価	
20 EFXJ-M	60025020	3,000円	
L ^{※1}	D	d	B
47.5mm	R3/4	20mm	36mm

※管端防食コア対応 ※1:施工完了時の寸法

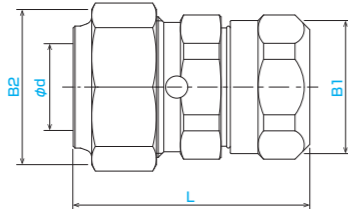
e-フレキ継手 メネジ



品番	品目コード	定価	
20 EFXJ-F	60025021	3,000円	
L ^{※1}	D	d	B
47.5mm	Rc3/4	19mm	36mm

※1:施工完了時の寸法

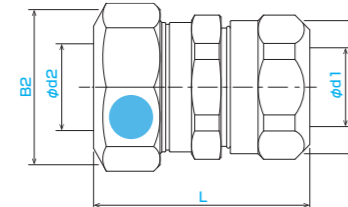
e-フレキ変換継手 KC用



品番	品目コード	定価	
20 EFXJ-KC	60025060	4,500円	
L ^{※1}	d	B1	B2
61.5mm	17.5mm	36mm	42mm

※1:施工完了時の寸法

e-フレキ変換継手 SE用



品番	品目コード	定価		
20 EFXJ-SE	60025040	4,500円		
L ^{※1}	d1	d2	B1	B2
56mm	18mm	17mm	36mm	42mm

※1:施工完了時の寸法

1 フレキ管の切断



被覆の上から、パイプカッターを使用して、フレキ管を必要な長さより50~100mm程度の余裕をみて長めに切断してください。

- ⚠ フレキ管の切断には、必ずパイプカッターを使用してください。他の工具を使用した場合には、フレキ管の変形などが発生し施工不良や漏水の原因となります。
- ⚠ 切断前にフレキ管を真っ直ぐにしてください。曲がっていると施工不良や挿入不良、漏水の原因となります。

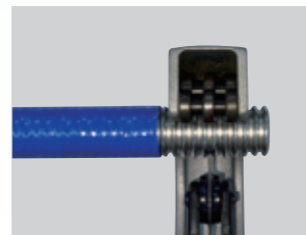
2 フレキ管の被覆の剥離



被覆カッターを使用して、フレキ管先端約50mm程度の被覆を剥離してください。

- ⚠ 剥離前にフレキ管を真っ直ぐにしてください。曲がっていると施工不良や挿入不良、漏水の原因となります。
- ⚠ 被覆の剥離には必ず被覆カッターを使用してください。他の工具を使用した場合には、フレキ管に傷などの損傷が発生し漏水の原因となります。

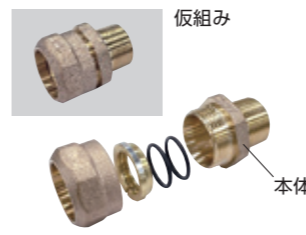
3 フレキ管の原管の切断



パイプカッターを使用して、フレキ管の原管を5山残して必ず谷部で切断してください。

- ⚠ 切断面にめくれ(ばり)、へこみ(打痕)、欠損、扁平等や著しいピッチの変形のある場合は、不要部をパイプカッターで切断し、「2.フレキ管の被覆の剥離」からやり直してください。フレキ管に変形や傷付きがあると施工不良や漏水の原因となります。
- ⚠ フレキ管の原管の一部が切り残った場合には、無理にねじらずにその部分を繰り返し折り曲げてばりが出ないように切り取ってください。

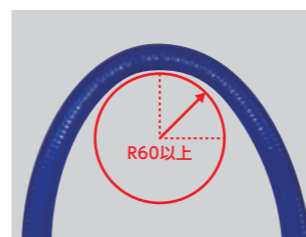
4 本体のねじ込み



仮組みされた継手から本体を外して、配管接続口に工具等を用いてねじ込んでください。

- ⚠ 他の継手、器具類などと接続する為の管用テーパネジ部はシール材を必ず使用してください。漏水の原因となります。
- ⚠ 仮組みされた継手から本体を外す際、構成部品の落下にご注意ください。
- ⚠ 落下等により傷、変形、破損がある場合は、継手を使用しないでください。施工不良や漏水の原因となります。

5 フレキ管の仮曲げ



最小曲げ半径R60以上の出来るだけ大きなRで、かつ均等に山が広がるように曲げてください。

- ⚠ 最小曲げ半径を守ってください。これより小さい半径で曲げると耐久性が低下して漏水の原因となります。
- ⚠ 同一箇所での繰り返し曲げは3回以内にしてください。フレキ管が破損し、漏水の原因となります。
- ⚠ 継手端部から30mm以内では曲げないでください。漏水の原因となります。

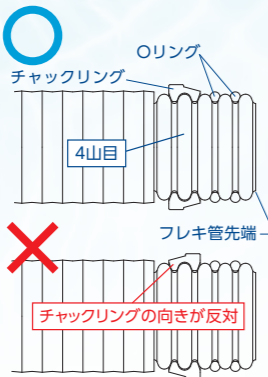
6 ナット、Oリングの装着



フレキシブル管にナットを通してフレキシブル管先端から1、2山目の谷にOリングをセットしてください。

- ▲ Oリング及びフレキシブル管外面に異物が付着していないことを確認してください。漏水の原因となります。異物が付着している場合は、傷が付かないように取り除いてください。
- ▲ ナットの向き、Oリングのセット位置を間違えないようにしてください。施工不良や挿入不良、漏水の原因となります。
- ▲ Oリングをフレキシブル管に取り付ける際、フレキシブル管の先端でOリングに傷を付けないように注意してください。漏水の原因となります。傷が付いたOリングは使用しないでください。
- ▲ ネジ部など鋭利な部位があるため必ず手袋などを着用してください。但し、軍手など繊維がシール部に付着する恐れがあるものは使用しないでください。漏水の原因となります。

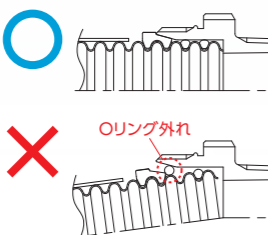
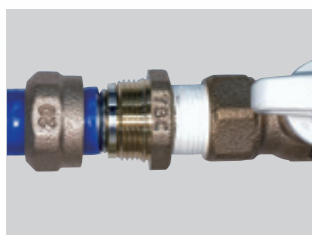
7 チャックリングの装着



チャックリングを広げてフレキシブル管先端から4山目にセットしてください。

- ▲ チャックリングの向き、セット位置を間違えないようにしてください。施工不良や漏水の原因となります。
- ▲ チャックリングは大きく広げると分離する構造です。万一チャックリングが分離した場合でも、適切に施工が行えるようチャックリングの外周面にシール(シルバー色)を貼付けていますので、剥がさないでください。
- ▲ チャックリングは取扱いの状況によって分離することがありますが、分離した状態でもフレキシブル管の適切な位置へセットし、ナットを締付けることにより継手の性能が損なわれることはありません。
- ▲ 万一チャックリングが分離した場合は、フレキシブル管にチャックリングをセットした状態を維持しながら管を本体に対して真っ直ぐ挿入してください。

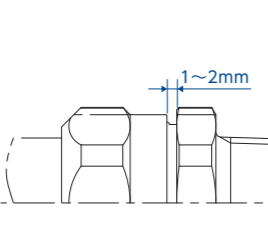
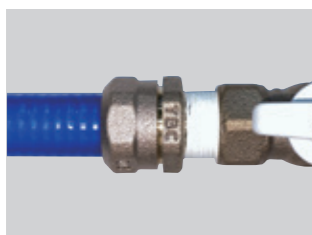
8 フレキシブル管の本体への挿入



チャックリングが脱落しないように注意してフレキシブル管を本体に対して真っ直ぐに挿入してください。

- ▲ 斜め挿入するとOリングが所定の位置から外れたり、傷付き、漏水の原因となります。

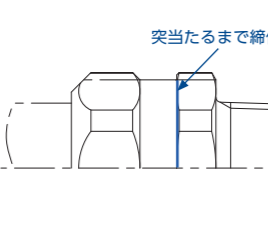
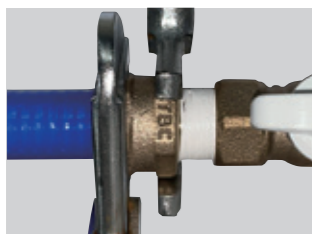
9 ナットの仮締め



ナットを本体に手締めでねじ込んでください。本体にフレキシブル管が十分押込まれている場合は、ナットと本体六角部のすき間が1~2mm程度まで手締めでねじ込めます。

- ▲ 手締めで所定の位置までナットがねじ込めない時は、Oリングの噛み込みや挿入不足の可能性がありますので、ナットを外して「8.フレキシブル管の本体への挿入」からやり直してください。
- ▲ Oリングが噛み込み等により切れや変形している場合は、そのOリングを使用しないでください。漏水の原因となります。
- ▲ ナット締め付け用のネジにはシール剤塗布やシールテープの巻き付けは行わないでください。Oリングの劣化、異物の噛み込みを起こし漏水の原因となります。

10 ナットの本締め



モンキーレンチ、スパナ等の工具でナットを本体に締付けてください。

- ▲ ナットが本体六角部に突当たるまで締付けてください。ナットが本体六角部に突当たる前に一旦トルクが上昇しますが、そこで締付けを終了せず必ず突当たるまで締付けてください。締付け不足の場合、使用中にナットがゆるみ、漏水の原因となります。

- ▲ ナットが本体六角部に突当たらない場合は、チャックリングが適切に取付けられていない可能性があるため、ナットを外してチャックリングの方向性を確認し、「7.チャックリングの装着」からやり直してください。

変換継手の施工

▲ e-フレキシ継手および下記変換継手の施工を行う際は、必ず右のQRコードから最新版の施工手順書を確認してから施工してください。

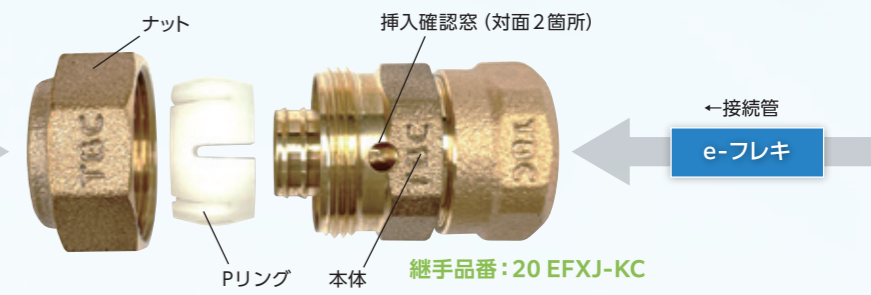
※最新版の施工手順書をQRコードから確認できない、または確認できない環境の場合は、最寄りの弊社営業所までお問い合わせください。



(株)クボタケミックス製との接続

接続管→
 (株)クボタケミックス製
 建築設備用ポリエチレンパイプ製品*1

※1 上記製品に関して、裏表紙の注意事項
 4.「変換継手の適用製品について」に
 記載の製品以外は使用しないでください。

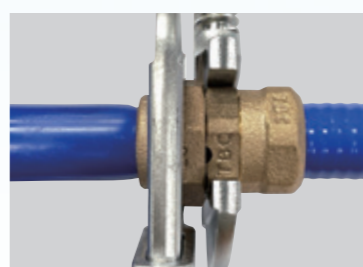


1 管の挿入



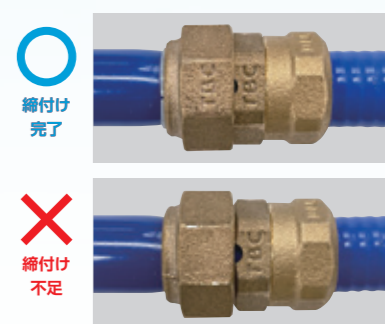
立管分岐部を本体の奥に当たるまで挿入してください。挿入確認窓から立管分岐部が本体の奥まで挿入されていることを確認してください。

2 ナットの締付け



工具でナットを本体に当たるまで締付けてください。

3 完了確認



管の挿入不足及びナットの締付け不足が無い目視確認してください。

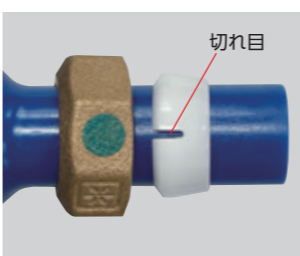
積水化学工業(株)製との接続

接続管→
 積水化学工業(株)製
 建築設備用ポリエチレンパイプ製品*1

※1 上記製品に関して、裏表紙の注意事項
 4.「変換継手の適用製品について」に
 記載の製品以外は使用しないでください。

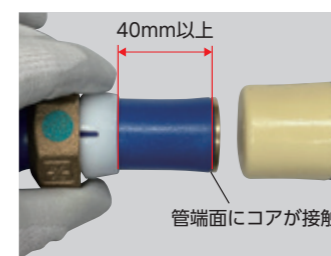


1 ナット、Pリングを通す



ナット、Pリングの順番で管に通してください。Pリングは切れ目のある方がナット側になるよう確認して通してください。

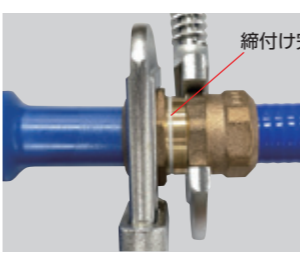
2 コアの打ち込み



コアを管に打ち込んでください。打ち込む際は、ナットとPリングを管端から目一杯離れた状態(目安: 40mm以上)で管を握り、コアが管端面に当たるまで打ち込んでください。

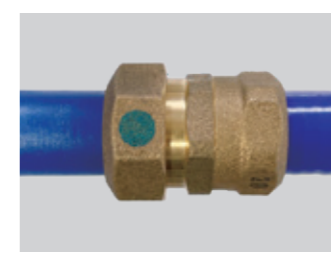
▲ ナットとPリングが管端にある状態でコアを打ち込むと、Pリングが管に食い込んで漏水や管が継手から抜け出す原因となります。

3 ナットの締付け



コアを打ち込んだ後、本体に管端を差込み、本体にある締付け完了標線(白色)が見えなくなるまで工具でナットを締付けてください。

4 完了確認



ナットが適切に締付けられていることを目視確認してください。